



教育の発展

およそ20年にも及ぶ教育活動の展開の中で、教育理念は「動物を愛する」ことから「すべての生き物に対して広く敬意を払う」ことへと移ってきています。そのため、教育の内容も単純に動物のことから、植物、生息地保護や自然資源の保護へと変わってきています。

来園者の（知識や年齢）レベルの相違に合わせた施設概要紹介、印刷物、そしてボランティアによるガイドツアー（チーム徽章の写真）のほか、小学生向け校外学習、教師対象のワークショップ、家族向けキャンプ、および来園者向けの特別展など、様々な教育活動を行っています。



動物福祉

動物福祉は我々が長年努力しているものですが、それには動物がいろいろな行動をするように仕組むことも含まれています。たとえば、サルたちが時間を掛けて食べ物を探すようにタワシあるいは竹の筒の中に食べ物を隠し、野生下で見られる採餌行動が発現するようにしている。



来園者へのより質の高いサービス

動物園は自然のメッセージを伝えるだけでなく300万人の来園者が求める快適さと利便性を満足させることも必要です。このため、来園者が楽しむことができる様に、接客などの職員訓練を行うほか、飲食・休憩施設や公衆トイレの整備、園内の緑化と美化を、毎年重点的を決めて強化している。写真撮影の素晴らしい背景を提供する花の丘、園内を一周する機関車風連接バス、また遊歩道上のカバ模型を通じ、来園者は様々なレクリエーションを体験できます。



総合教育のための動物展示

飼育場も教育活動と連携しており、たとえば1997年に開設されたアジア熱帯雨林区はそこで育つ多様な動物や植物と人との関係について展示しています。

教育の見地では、私たちは熱帯雨林がヒトによってどのように破壊されているのかについて焦点を絞っています。これにより人々は消失する熱帯雨林により多くの注意を払うようになるでしょう。

